

令和3年度10月版

五島高校定時制通信

星空の城

発行 五島高等学校定時制

「時を守り 場を清め 礼を正し 来て良かった 行かせて良かった 五高定時制」

“100 - 1 = 0” みんなで創る五高定時！

It is much more difficult to judge oneself than to judge others.

(Antoine de Saint-Exupery)

～1人1台端末（タブレット）の活用～

7月末をもって、県立高等学校の生徒および授業をする教員への1人1台端末（タブレット）の配備が完了し、本校定時制でも本格的な利活用が開始されました。教員はこれまでの教育とパソコン活用を組み合わせ合わせたハイブリッド型の教育の実現に向け、早速、授業で活用しています。今後は福江島探訪（ふるさと教育）などにおいて、地域の課題や学んだことをさらに調べ、主体的に学ぶ力の育成を目指します。



～避難訓練～

9月3日に避難訓練を実施しました。台風の季節を控え、生徒・職員ともに真剣な態度で訓練に取り組んでいました。

コロナ禍に限らず、全国的に自然災害が多くなっています。日常の危機管理意識、被災時の心構えを身に付けさせたいと思います。



～オープンスクール～

9月16日にオープンスクールを開催しました。生徒に寄り添う定時制の方針と取組、頑張っている生徒の様子を紹介しました。また、2年生が高校生活を生徒視点で楽しく紹介しました。授業参観の時間には、数学を真剣に、理科を楽しそうに学ぶ姿が見られました。

「学校見学・個別相談」は随時受け付けています。

さまざまな事情のある人にも「学ぶチャンスを提供する」学校として、興味がある方に五島高校定時制を御紹介いただくと幸いです。



～生徒会役員任命式～

9月24日に後期の生徒会役員任命式が行われました。生徒会役員改選・投票を受けて、生徒会会長として島雅晴さん（2年）、副会長として上野達真さん（2年）が任命されました。また、生徒会会長からの推薦や立候補により、議長に荒木咲哉さん（2年）、副議長兼監査に山口輝真さん（2年）、会計に下山春雄さん（1年）、書記に山下秋華さん（3年）が任命されました。定時制全員で学校行事を盛り上げてくれることを期待しています。



＜生徒会役員改選＞
立候補者・応援者の様子です
原稿を覚えるのに大慌て？

＜任命式＞
引き締まった表情
が凛々しい。◆◇



～人生の達人セミナー～



9月29日、「〇〇と〇〇で僕の世界が変わった」という演題で「株式会社そらや」から濱本翔代表取締役をお迎えし、ドローンを活用した地域貢献についてお話をいただきました。御自身の体験談をもとに、「動くこと」「得られた出会いを活かすこと」など、生き方の心構えを学ぶことができました。

10月の主な行事予定

- 1日(金) 校内漢字検定
後期生徒総会・容儀指導
- 3日(日) 鳴滝通信 (該当者のみ)
- 6日(水) 中間考査時間割発表、
考査前学習会 (～10/12)
- 13日(水) ★中間考査
- 14日(木) ★中間考査
- 15日(金) ★中間考査
- 17日(日) 鳴滝通信 (該当者のみ)
- 18日(月) 特別時間割 (～11/2)
※体育祭に向けて
- 22日(金) ★福江島探訪 (三井楽)
- 24日(日) 鳴滝通信 (該当者のみ)
- 25日(月) 夕方の読書 (～11/4)
- 31日(日) 鳴滝通信 (該当者のみ)

※ SC 来校日

10/11、10/18、10/25

※ SSW 来校日

10/6、10/13、10/20、10/27

「そんならいのことで！」

みなさんは、「さるとかに」という話を御存じでしょうか。その「さるとかに」の中に、次のような一節があります。

(さる) にとっては小さな石

(かに) にとっては大きな岩

同じ大きさの石も、猿にとっては小石にしかすぎないけれど、小さな蟹には、体を押しつぶされてしまうほどの大きな岩に見える。そんな意味の話です。

「そんならいのことで 泣くな！！」

「そんなげんことでも くよくよするな」

親も教師も子ども達もよくつかう言葉です。励ましの気持ちを込めてつかう場合もあるのですが、

泣いている子どもにとって

悩んでいる子どもにとって

けっこう傷つく言葉なのです。

親や教師にとっては「そんならいのこと」かもしれませんが、

でも、当事者である子どもたちにとっては、心も体もずたずたにされるほどの重大な問題であることもあります。

まさに、

(さる) にとっては小さな石

(かに) にとっては大きな岩

大人と子どもの思いのギャップ、心のずれの違い。「家の人も先生も友だちも、私の気持ちをわかってくれない」なんて、子どもたちは思うのかもしれない。だから傷つくのでしょうか。

心がなかなか届かないことを知った子どもたちは、だんだん自分の思いを語らなくなってしまおうでしょう。

「そんならいで おおげさな」と思われるでしょうが、この言葉の意味・重さについて語り合ってみたらどうでしょうか。

「そんなげんことだけでも」子どもの心にうーんと近づくことができるかもしれませんよ。

(さる) にとっては小さな石

(かに) にとっては大きな岩

心にとめておきたい言葉ですね。

江頭明文先生「うんまあのふところ」より